



ロータリー: 変化をもたらす

RI会長/イアンH.S.ライズリー

D2600ガバナー/関 邦則

会長/佐藤重喜

副会長/宮本伸司

幹事/河野正美

会報委員長/奥寺浩司

第2644回例会

2018年2月3日 Vol.55/No.21

節分例会 & 夜間例会

【節分追儺式】

参加を始めてから今年で8年目（卯、辰、巳、午、羊、申、酉、戌）になります恒例の節分追儺式が長久寺（佐藤一元住職のお寺）において、執り行われました。

今年の参加者は9名。それぞれに厄を払って頂きました。

「佐藤一元住職のご講話」



本日は大勢のご参加有難うございました。

今年のお札は、天皇陛下の生前退位により平成の年号が今年で終わる事、当山の改築構想を始めてから30年の節目である事、そして今年は戌年である事、戌年は万物を創生する年でもあります。妊婦さんが戌の日に腹帯を巻くように大切な年です。そんな大切な年なのでお札の文字を青色で書きました。本堂にて護摩焚きを行いました。結界するその最初の場所が東です。東は青色で表します。青色は人の気持ちを集中させ足元をしっかりと固めると言う伝えが有ります。そういう年ですので今年は青でお札を作りました。

何処かへ出かける時は、災難が降りかからないようお札をお参りしてからお出かけください。東は阿しゅく如来の方向です。あしゅく如来はより自分の気持ちを心強くしてくれる仏様です。すべてを含め今年東の方角です。色々な災難が降りかからないようご自宅の居間にお祭りしてもらいたいと思います。

本日はありがとうございました。



【例会の記録】

- ◆SAA 小山充浩さん
- ◆司会 小山充浩さん

【出席報告】

	会員数	出席者	メイク	出席率
本日	34名	13名		84.62%
前々回	34名	11名	9名	76.92%

【にこにこBOX報告】

佐藤重喜さん、山田裕さん、田中利幸さん
小宮山陽一さん、内堀敏高さん、佐藤一元さん、
井田宗広さん、服部正さん、栗木悦郎さん、
佐藤恵太さん、

本日の喜投額 12,000円
累計喜投額 507,000円



夜間例会

節分追儺式で厄を払って頂いた後は、焼肉で風邪に負けないよう活力を補いましょう。



【ロータリー情報

「ロータリーソング誕生秘話」

ロータリーソング「我らの生業」の作詞・作曲が、なんと、唱歌「ふるさと」の名コンビ、作詞：高野辰之、作曲：岡野貞一だったのである。

ロータリー歴の長い会員はご存知かもしれないが、私はまだ3年と浅い。だから、この展開には言葉も失った。瀧廉太郎に始まって、唱歌へ繋がり、まさかロータリーソングへ展開するとは予想すらしなかった。さらなる探究心に火がついた。

この歌が誕生する経緯（いきさつ）は、昭和5（1930）年に遡る。戦前、東洋（マニラや上海）のロータリークラブ（RC）は会員の大部分が欧米人であった。そこに日本人だけのRCとして、昭和2（1927）年8月、朝鮮半島に京城（ソウル）RCが誕生。以後、満州では満州鉄道理事の松岡洋右（のちの立憲政友会衆議院議員、第2次近衛内閣の外務大臣）が中心となって昭和3（1928）年、大連RCが誕生。この大連RCの世話で昭和4（1929）年奉天（現 瀋陽）RCが設立された。それまでのロータリーソングは西欧の歌（歌詞も英語）だったので、翌年の昭和5（1930）年、神戸の地区大会で、奉天RCが日本語のロータリーソングを創ることを提案。採択された。

この大会に出席していた国際ロータリークラブ連合会会長のFrank Mulholland氏は「ロータリーは世界のロータリーであって、アメリカのロータリーではないと思う。今、英語でロータリーソングを唄われたが、何故日本語の歌を唄わないのか、と聞いたところ、日本語の歌では権威がないということであったが、そのようなことでは困る。私は、各国におけるロータリークラブが、それぞれその国の風俗習慣によって行われることを希望する」と説き、日本語のロータリーソング創作を応援・支持した。「ロータリー日本化」の始まりである。

募集で集まった中で、新作4曲が選ばれ、昭和10（1935）年、京都の地区大会で発表された。1位は「旅は道連れ」だったが、著作権問題で失格となり、2位の「奉仕の理想」が繰り上げ1位となった。3位は「平和を世に植え」、4位が「我らの生業」である。ただ、順位について、あるクラブ週報には、これら4つは大会で発表された順番であって、順位ではないとの記述もある。大会議事録にも順位の記述はなく、これらの歌は甲乙つけ難いとある。

「奉仕の理想」と「我らの生業」は今もよく唄われ続けている。

「我らの生業」以外の曲は、ロータリアンの作詞・作曲によるもの。したがって、誕生の経緯は理解できるが、高野辰之と岡野貞一は両氏ともロータリアンではない。また、「ふるさと」や「春の小川」、「おぼろ月夜」など小学校唱歌は盛んに唄われてよく知られていた。しかし、作詞・作曲者は公表されていない。高野、岡野の両氏が一般に知られるようになったのは、昭和47年、高野氏の養女高野弘子さんの申し出で、音楽著作権協会が作詞者高野氏の著作権を認めたことである。ただし、認められたのは「ふるさと」「春が来た」「春の小川」「おぼろ月夜」「もみじ」の5曲だけ。また、作曲者については唱歌編纂委員会の複数の委員の合議で決められたこともあり、岡野氏に特定するのは困難との意見もある。

蓼科RC山浦俊一氏より提供】

「福岡南ロータリークラブ マンスリーレポートより」